

2027年3月期 第2四半期

決算説明資料

2026年11月25日

証券コード:3741

株式会社セック
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

目次

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 重点テーマ

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

事業分野（BF）

会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない一流のソフトウェア会社となる

- 1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核として成長
- 「リアルタイム技術」が必要とされ、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野
- 社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野を開拓



Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

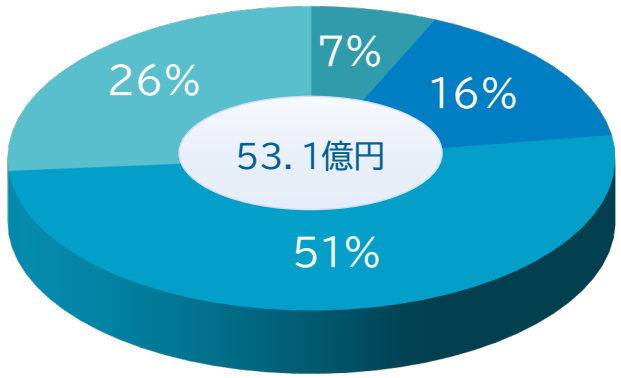
2027年3月期 第2四半期

決算概要

株式会社セック

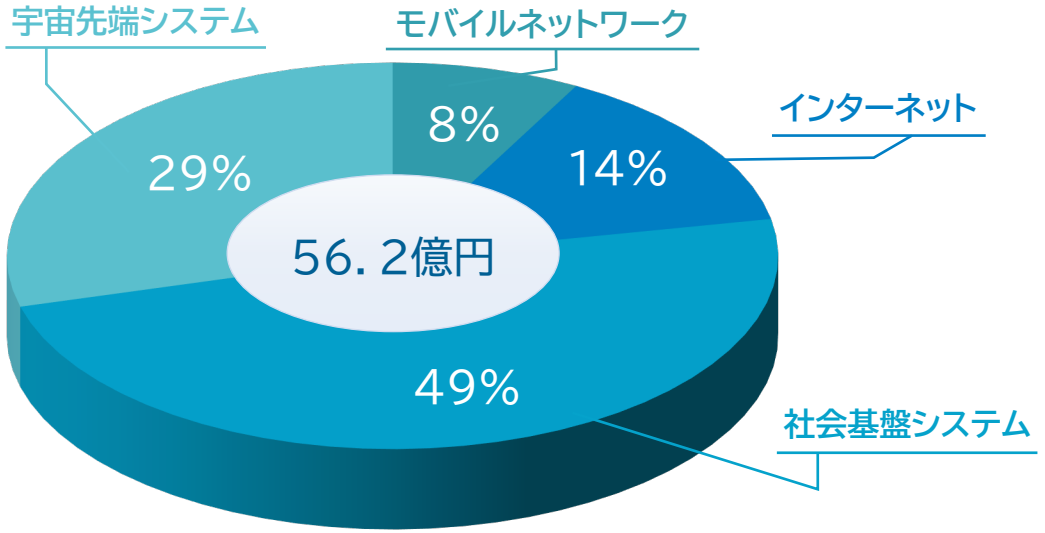
事業環境

IT需要は全体的には概ね堅調



2026年3月期第2四半期

需要構造の変化に応じ
柔軟に対応



2027年3月期第2四半期

モバイルネットワークBF

大手通信事業者向けの大規模案件の開発が増加

インターネットBF

民間企業向けのDX関連の開発が増加したものの、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより減少

社会基盤システムBF

司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調であったものの、全体構成比では減少

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2027年3月期第2四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高
前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	５，６２２	１０５．７%	
営業利益	９５０	１１５．０%	１６．９%
経常利益	１，０９１	１２２．８%	１９．４%
当期純利益	７５４	１２１．０%	

受注高は過去4位、受注残高は過去最高

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	４，０７６	６８．６%
受注残高	７，５１９	１０９．２%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

官公庁向けの開発が引き続き好調であり、車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年度第4四半期の好調な受注により過去4位となったが、受注残高は前年同期を上回り過去最高となった。

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

第２四半期損益計算書

	2026年3月期第2四半期 （百万円）	2027年3月期第2四半期 （百万円）	前年同期比 （%）	期初予想 （百万円）	計画達成率 （%）
売上高	５，３１７	５，６２２	１０５．７	５，３５０	１０５．１
売上原価	３，７６０	３，８４１	１０２．１	３，５８０	１０７．３
売上総利益	１，５５６	１，７８０	１１４．４	１，７７０	１００．６
販売管理費	７２９	８３０	１１３．８	８９０	９３．３
営業利益 （営業利益率）	８２７ （１５．６%）	９５０ （１６．９%）	１１５．０	８８０ （１６．４%）	１０８．１
経常利益 （経常利益率）	８８９ （１６．７%）	１，０９１ （１９．４%）	１２２．８	１，０４０ （１９．４%）	１０５．０
当期純利益	６２３	７５４	１２１．０	７１０	１０６．３

売上原価　外注費が大幅に増加（2,192百万円、前年同期比17.5%増／売上高外注比率39.0%、前年同期比3.9%増）、定期昇給・ベースアップにより人件費が増加

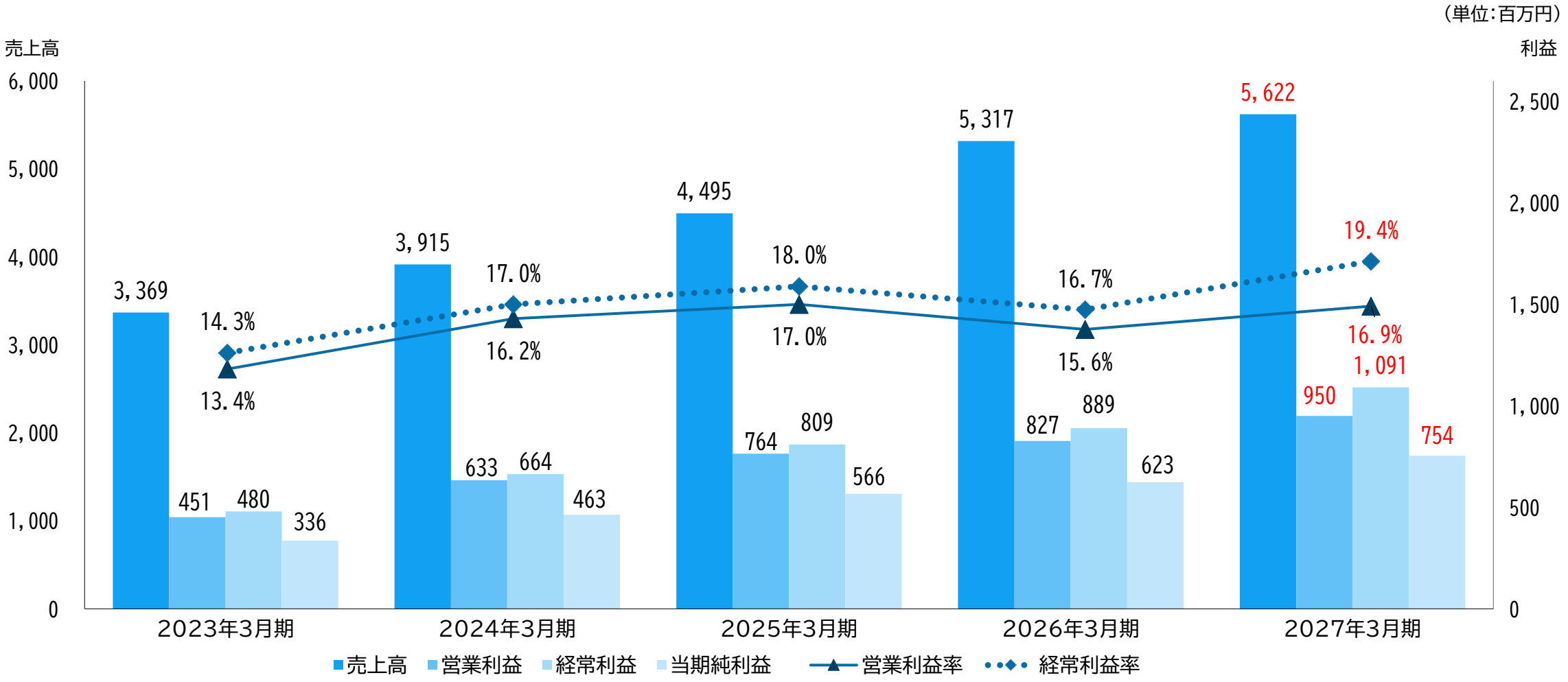
販売管理費　新入社員の増加、定期昇給・ベースアップにより労務費が増加、研究開発費は146百万円で、前年同期比で74.8%増

営業外損益　研究開発の補助金収入が大幅に増加（97百万円、前年同期比272.8%増）

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

第２四半期決算業績推移（過去５年）

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高

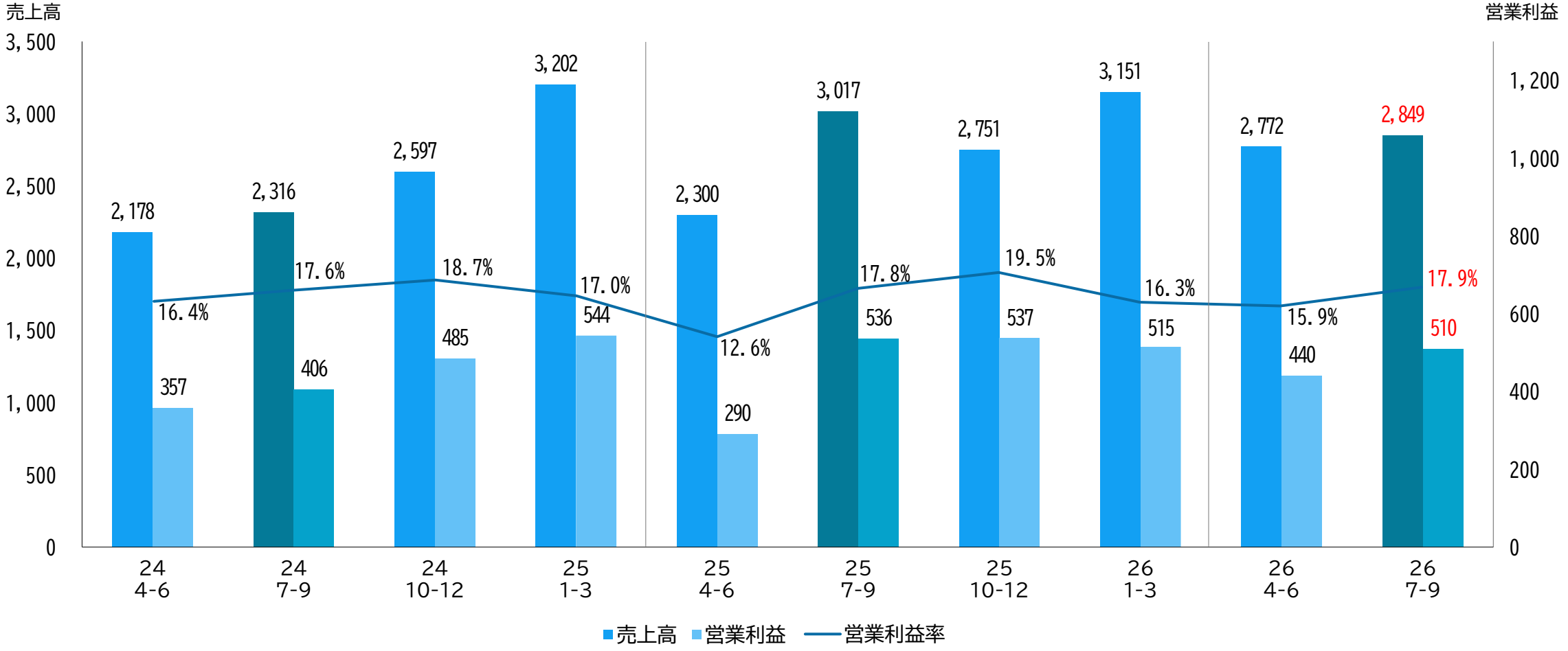


Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

四半期業績推移（PL）

第1四半期は増収増益、第2四半期は、前年同期の大型案件の反動で減収減益

（単位：百万円）

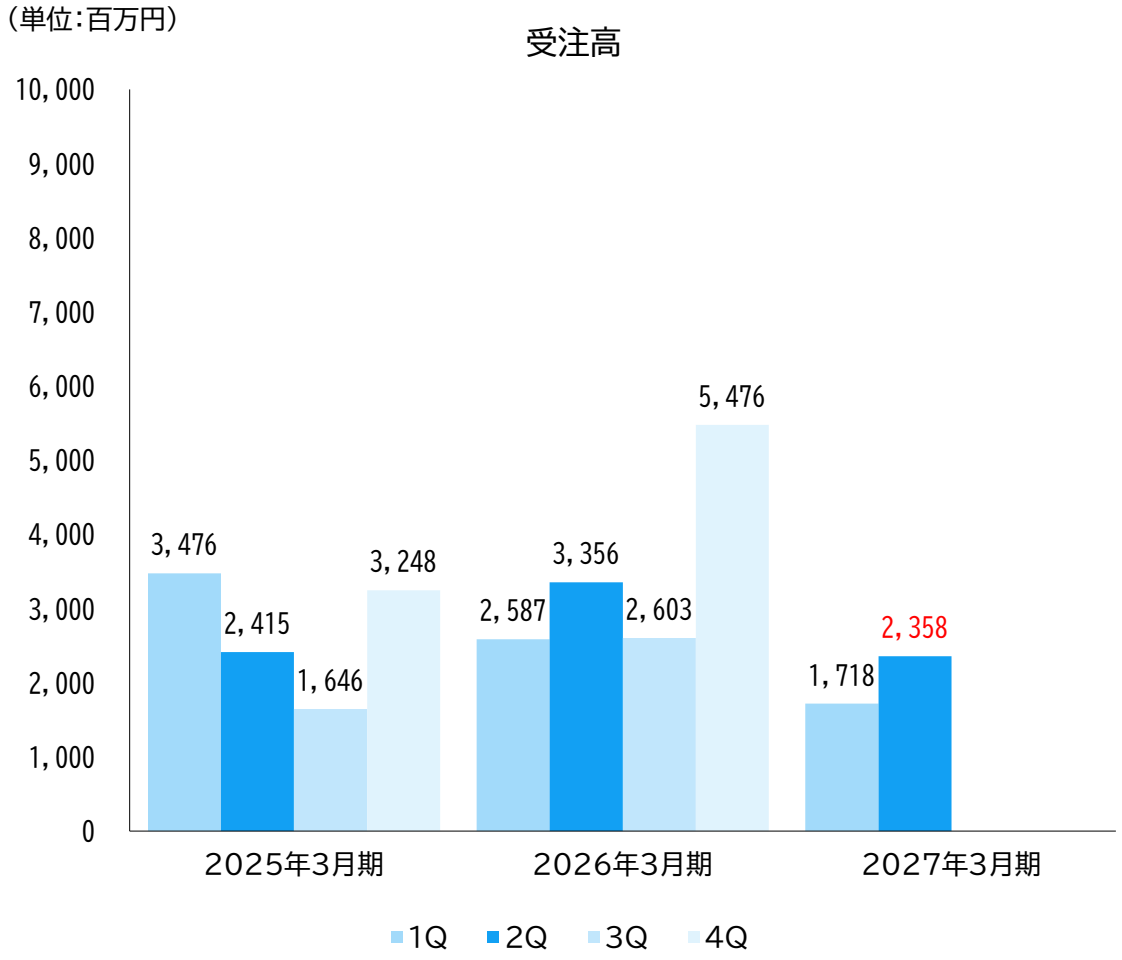


Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

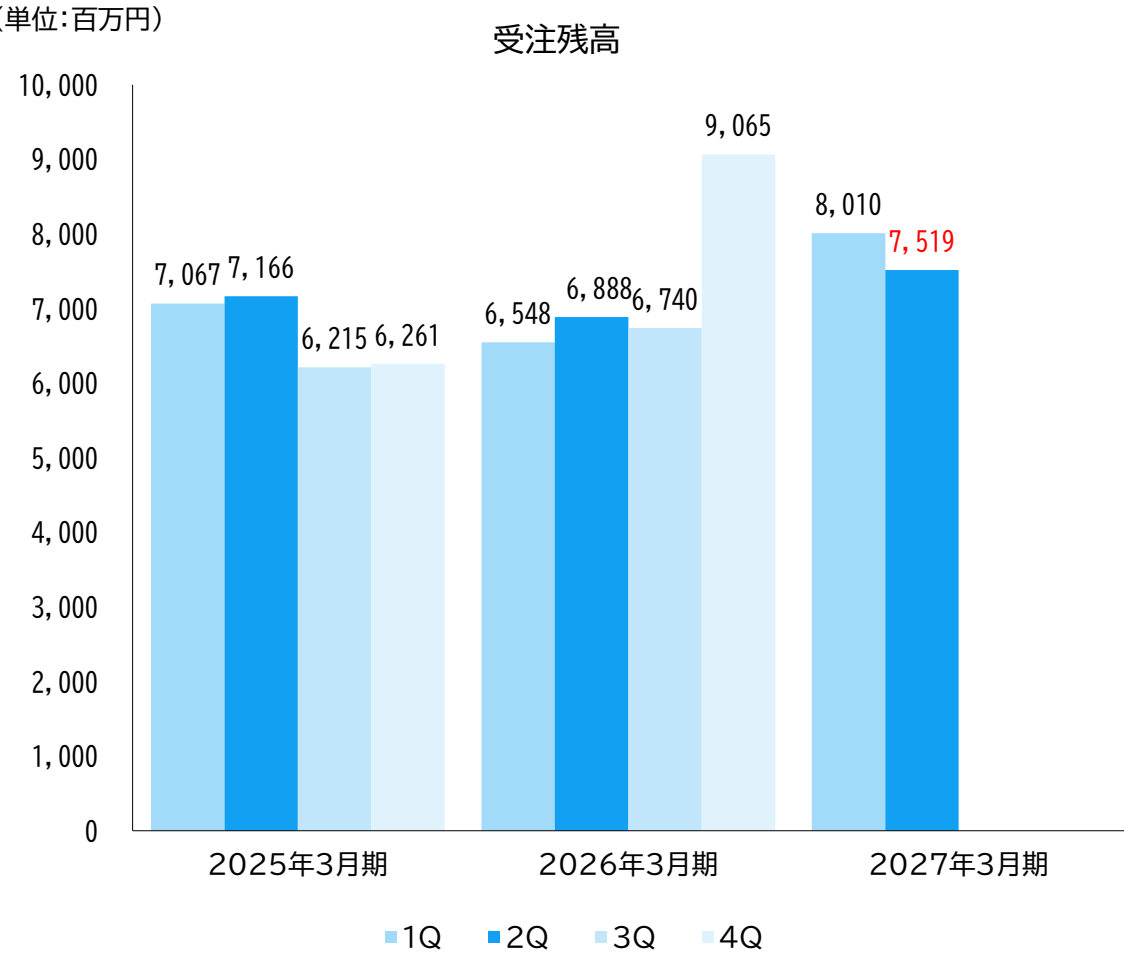
四半期業績推移（受注状況）

受注高は過去4位、受注残高は過去最高

（単位：百万円）



（単位：百万円）



Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

第２四半期ＢＦ別の状況

モバイルネットワークBF、宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2026年3月期第2四半期		2027年3月期第2四半期		
	売上高（百万円）	構成比（%）	売上高（百万円）	構成比（%）	前年同期比（%）
モバイルネットワーク	３５５	６．７	４４４	７．９	１２４．８
インターネット	８４３	１５．９	７８９	１４．０	９３．６
社会基盤システム	２，７１８	５１．１	２，７４４	４８．８	１０１．０
宇宙先端システム	１，３９９	２６．３	１，６４４	２９．３	１１７．５
合計	５，３１７	１００．０	５，６２２	１００．０	１０５．７

- モバイルネットワークBFは、大手通信事業者向けの大規模案件の開発が増加
- インターネットBFは、民間企業向けのDX関連の開発が増加したものの、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより減少
- 社会基盤システムBFは、司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

第２四半期ＢＦ別受注状況

受注高は前年度第4四半期の好調な受注により過去4位、受注残高は過去最高

ビジネスフィールド	2026年3月期第2四半期		2027年3月期第2四半期			
	受注高（百万円）	受注残高（百万円）	**受注高（百万円）**	前年同期比（%）	**受注残高（百万円）**	前年同期比（%）
モバイルネットワーク	３６９	１９２	３４６	９３．７	２３０	１１９．９
インターネット	９２８	５１４	７７７	８３．７	４４２	８６．０
社会基盤システム	３，２２６	５，３４１	１，２２７	３８．０	５，７２９	１０７．３
宇宙先端システム	１，４１９	８３９	１，７２６	１２１．６	１，１１７	１３３．０
合計	５，９４４	６，８８８	４，０７６	６８．６	７，５１９	１０９．２

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は4，865百万円（前期比15．4%増）、来期以降売上貢献分は2，653百万円（前期比0．7%減）

- モバイルネットワークBFは、大手通信事業者向けの大規模案件により受注残高は大幅に増加
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより受注が減少
- 社会基盤システムBFは、前年度第4四半期の好調な受注により、受注残高は増加
- 宇宙先端システムBFは、宇宙関連の開発案件の受注が増加し、受注残高は大幅に増加

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

第２四半期期末貸借対照表

	2026年3月末日(百万円)	2026年9月末日(百万円)	増 減(百万円)
流動資産	９，９２４	９，６７６	▲２４７
固定資産	２，５１０	２，７０４	１９４
流動負債	１，９２８	１，６９７	▲２３０
固定負債	１９３	１８１	▲１２
純資産	１０，３１３	１０，５０３	１９０
総資産	１２，４３５	１２，３８１	▲５３
自己資本比率	８２．９%	８４．８%	１．９%
流動比率	５１４．７%	５７０．１%	５５．３%
固定比率	２４．３%	２５．８%	１．４%

流動資産　売上債権の減少・現金及び預金の増加などによる減少

固定資産　投資有価証券の増加などによる増加

流動負債　買掛金の減少などによる減少

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

第２四半期キャッシュ・フロー計算書

	2026年3月期第2四半期 （百万円）	2027年3月期第2四半期 （百万円）	増 減 （百万円）
営業活動によるキャッシュ・フロー	２，６８９	２，０６９	▲６１９
投資活動によるキャッシュ・フロー	８１	▲１６５	▲２４７
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲５５９	▲６１１	▲５１
現金及び同等物の増減額	２，２１１	１，２９２	▲９１９
現金及び同等物期末残高	４，４４３	４，６１４	１７０

営業キャッシュ・フロー　売上債権の回収額の減少、棚卸資産の増加などによる収入減

投資キャッシュ・フロー　前年同期は投資有価証券の償還があったことに加え、当期は投資有価証券の取得もあり支出増

財務キャッシュ・フロー　配当金支払額の増加などによる支出増

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2027年3月期

今期業績見通し

株式会社セック

2027年3月期業績見通し

概ね計画範囲内であり、業績予想は据え置く

	2026年3月期実績(百万円)	2027年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	11，220	11，800	105．2
売上原価	7，893	8，160	103．4
売上総利益	3，326	3，640	109．4
販売管理費	1，446	1，660	114．7
営業利益 （営業利益率）	1，879 （16．8%）	1，980 （16．8%）	105．3
経常利益 （経常利益率）	2，062 （18．4%）	2，300 （19．5%）	111．5
当期純利益	1，509	1，575	104．3

今期の業績達成、次年度に向けた課題対応として以下に取り組む。

- 「社会基盤システムBF」の今期末及び次年度を意識した期跨り案件の受注を推進
- 当社コアコンピタンスである「宇宙」「ロボット」「エッジAI」「量子コンピューティング」の各分野を窮め、商談の質を高め、量を確保
- お客様動向をしっかりと把握した上で、次年度営業を強化

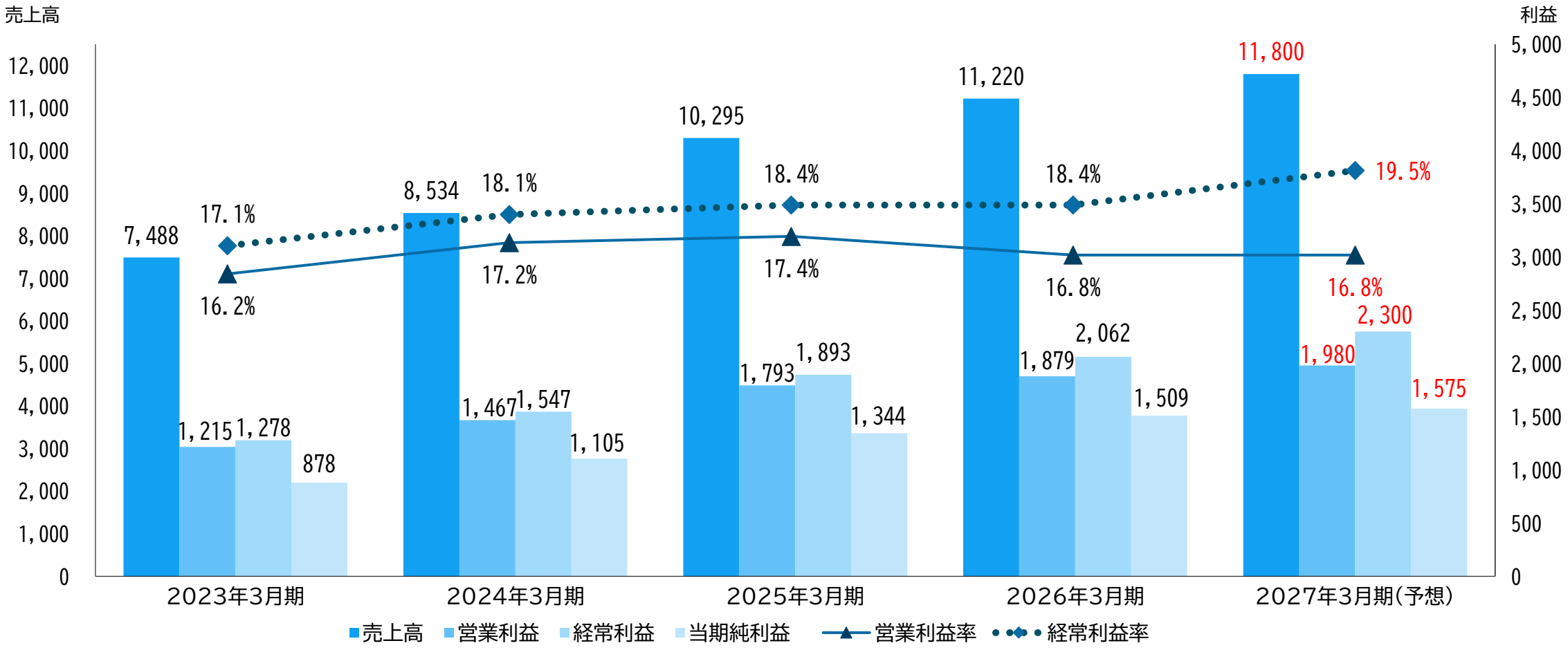
これらを下期に重点的に対応することで、今期の業績達成と次年度の増収増益を目指す。

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

通期業績の推移

10期連続の増収増益を目指す

（単位：百万円）



Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2027年3月期BF別業績見通し

モバイルネットワークBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	一部大手通信事業者向けの大規模案件の開発があるものの、全体的には減少		大手通信事業者向けの大規模案件の開発が増加し、増加を見込む	
インターネット	民間企業向けのDX関連の開発が増加するものの、他のBFとの人員配分の最適化により、減少		民間企業向けのDX関連の開発が増加するものの、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより減少し、ほぼ想定通りの展開	
社会基盤 システム	医療分野や環境分野の開発、司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、増加		司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、ほぼ想定通りの展開	
宇宙先端 システム	車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調であることに加え、国の研究機関向けの開発が増加し、増加		車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調であることに加え、国の研究機関向けの開発が増加し、ほぼ想定通りの展開	

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2027年3月期

重点テーマ

2027年3月期重点テーマ

先端技術を窮め、
オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。

2. 当社コアコンピタンスである、「宇宙分野」「ロボット分野」「エッジAI分野」「量子コンピュータ分野」に関して強化を図る。

「高付加価値化」

1. 最先端のリアルタイム技術に取組み、高単価、高付加価値化を目指す。

2. 研究開発・製品開発活動により得たニューエレメント（革新的技術、標準化技術、ソリューション製品、特許など知的財産権、新ビジネスモデルなど）を核として、主体的なビジネスを推進する。

3. サイバーレジリエントな環境と体制を整備する。

「人的資本投資」

1. AI、デザイン思考、データサイエンス、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化する。

2. ハードウェアベンダとの人材交流を進め、ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化する。

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

国の研究開発プロジェクトの推進

7件

のプロジェクトが稼働中

国の研究開発プロジェクトの補助金・委託費が増加。今期は合計7件のプロジェクトが稼働しています。

NEDO

4件

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

- 超低電力エッジAIチップの研究開発
- 人協調ロボティクスの社会実装技術に関わる研究開発
- ロボットSI効率化向けソフトウェア開発基盤の構築
- 量子システム障害検知技術の研究

AMED

1件

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

- リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発

宇宙戦略基金

1件

- 月面広域分光カメラ・顕微分光カメラの開発

JAXA

1件

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
宇宙探査イノベーションハブ

- 次世代月面物流ローバの研究開発

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

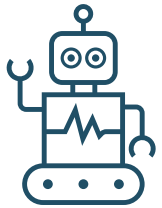
研究開発で技術を磨き、コアコンピタンスへ育て、事業につなげる

当社は、研究開発を将来の競争力を生み出す戦略投資と位置づけています。
「宇宙」「ロボット」「エッジAI」「量子コンピューティング」をコアコンピタンスとして、研究開発と実案件を通じて技術と知見を磨き、各分野を融合することで独自の競争優位を創出します。
さらに、研究成果を社会実装・事業化につなげ、次の成長事業へと育てていきます。



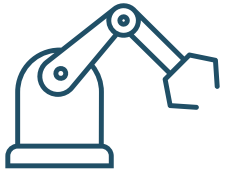
宇宙

ソフトウェア技術による宇宙開発の課題解決に取り組む。



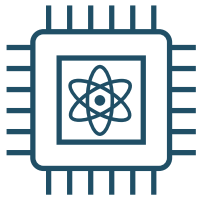
ロボット

ソフトウェア技術によるロボットの高付加価値化に取り組む。



エッジAI

FPGAやリザバーコンピューティング、XRなどエッジAI分野の研究開発に取り組む。



量子コンピューティング

量子コンピュータの実用化と普及のための技術開発に取り組む。

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

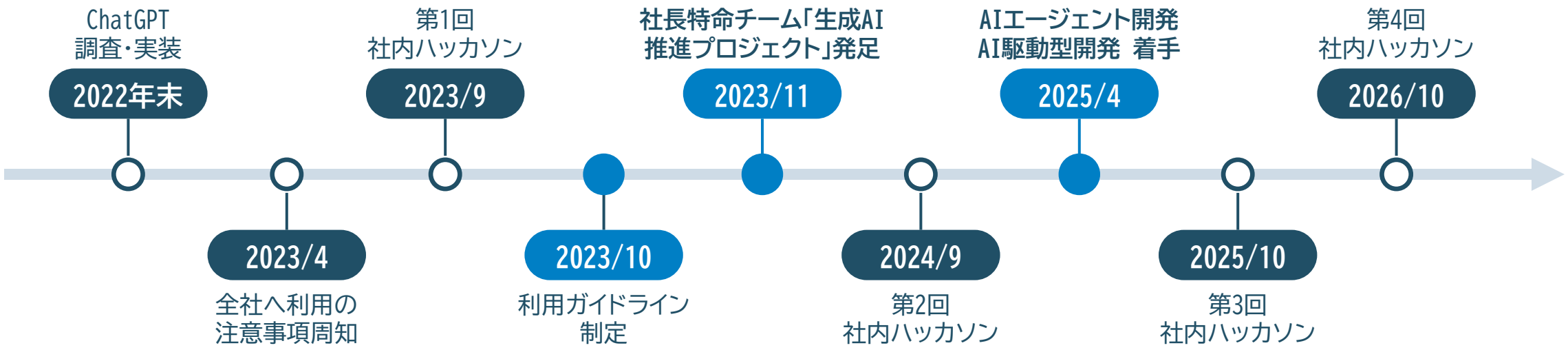
生成AIへの取組み

「つくる力」を「解決する力」へ進化させる

当社の生成AIへの取組み

生成AI関連の研究を進めるとともに、AIの活用に伴うリスクへの対策としてAIガバナンスに関する研究を進めています。ソフトウェア開発及び最先端技術を窮めるプロフェッショナルとして、また生産性向上、開発要員の精神的負担軽減などの観点から、生成AI技術に正しく向き合い、有効活用し、目の前に迫っている新しいシステム開発スタイルに備え、変化を先導するポジションを確保します。

目の前に迫っている新しいシステム開発スタイルに備え、変化を先導するポジションを確保する。



Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

AI駆動型開発

生成AI活用の現在地（SDMの進化）

当社は、SDM（SEC Software Development Methodology）というソフトウェアを作る仕組みを標準化しています。
設計プロセス、開発プロセス、運用プロセス、保守プロセス等を体系的に定義し、すべての作業（アクティビティ・タスク）を標準化した、価値を安定して作り続けるための仕組みです。

現在のSDM（人が主体）

「人が作業を進める」前提の作業標準

設計・開発・運用・保守の全作業を体系的に標準化

AIが開発主体に入ることは想定していない

環境変化（生成AIの台頭）

生成AIが要件定義・設計・実装などの開発工程全般に自律的に関与

AIエージェントが開発主体の一角へ

生成AI時代のSDM

「人の作業標準」から
「AIの品質判断基準」へ

AIが解釈・検証できる基準として再定義

人は承認主体として最終判断を担う

目指す開発・統制モデル：セック品質を担保する統制の仕組み

現在

人が作業し、
ツールとしてAIを使う

目指す姿

AIが作る → AIがSDMで検証する → 人が最終判断する
承認主体は人が担い続ける

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

新しい開発・統制モデルの確立

つくる作業をAIで高度化し、人は「問う・決める・進化させる」仕事へ。

すなわち、「つくる力」を「解決する力」へ進化させる。

設計	製造	試験
50%	10%	40%

↓

課題発見 (Discover)	開発実証 (Build)	進化展開 (Evolve)
50%	20%	30%

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

新しい開発・統制モデルの確立

「つくる力」から
「解決する力」へ。

我々は、リアルタイム技術を基盤に培ってきた技術力にAIを融合し、AIとの協働を前提とする新しいシステム開発スタイルへ移行を進めます。

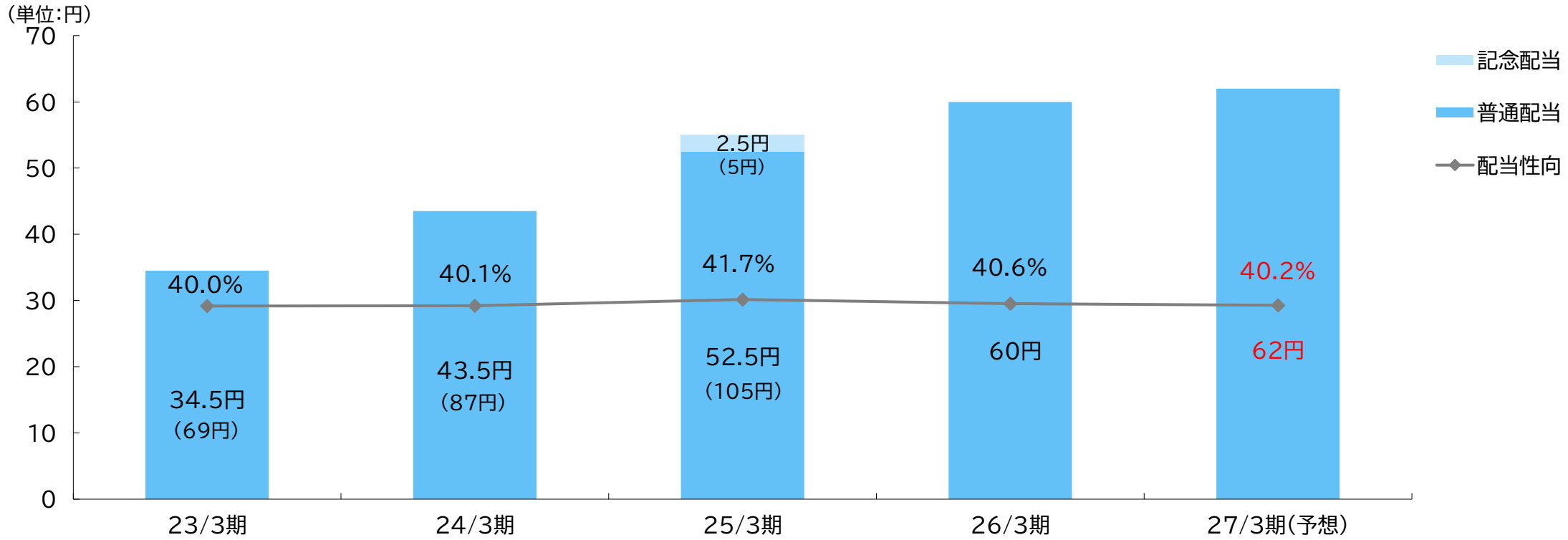
開発の効率化によって創出した時間を、宇宙・ロボット・エッジAI・量子コンピューターなどのコアコンピタンス強化と新規事業創出に振り向け、労働集約型から知識集約型へと事業モデルを進化させます。これにより、社員数と売上高の関連を徐々に切り離し、知識・技術・ソフトウェア資産が利益を生み出す事業構造への転換を目指します。

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で毎期増配の方針

2027年3月期は、1株当たり62円の配当予想とする。



※2025年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しておりますが、2023年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算出しております。
（ ）は株式分割前の金額。

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

ご参考：ニュースリリース一覧（2026年4月～11月）

2026年

4月14日	Kaggle「第7回全国医療AIコンテスト」にて当社社員参加チームが優勝
4月21日	「2026年度 世田谷ITカレッジ」開講
6月 9日	大阪大学量子情報・量子生命研究センター（QIQB）、セック、順天堂大学 計算待ち時間を短縮する量子マルチプログラミングを開発
7月 9日	第7回「きぼう」ロボットプログラミング競技会（Kibo-RPC）に協賛～若手エンジニア育成と宇宙ロボット技術の発展を支援～
7月27日	最先端技術と社会をつなぐラジオ番組「SETAGAYA TECH JUNCTION」を提供 ― 宇宙、量子、AI、ロボティクスなど最先端技術の魅力と可能性を発信 ―
7月30日	【共同プレスリリース】小惑星探査機「はやぶさ2」、太陽系天体フライバイ探査における最小距離を更新 ～小惑星トリフネフライバイにおける航法誘導制御の結果報告～
9月 1日	「2026年度 第2期 世田谷ITカレッジ」開講
9月 3日	「世田谷デジタルものづくりフェス」小学生向けロボット体験会を開催（2026年9月12日・13日開催）
9月 7日	2026年度日本建築学会大会[中国]学術講演会にて大成建設と共同で自律移動ロボットに関する講演発表を実施
9月11日	IEEE Quantum Week 2026にて量子コンピューティングに関する研究成果発表を実施
9月30日	九州工業大学とセック、少量データ・短時間学習が可能なAIを実現する「リザバーコンピューティング」の開発環境を公開
10月16日	パソナグループが運営する淡路島の観光施設「CRAFT CIRCUS」でロボットの実証実験に協力
10月19日	日経ビジネス（2026年10月19日号）の特集記事に当社の取組みが紹介
10月19日	日本証券新聞社のWebサイトに当社社長のインタビュー記事が掲載
10月30日	「次世代育成支援対策推進法」に基づく「くるみん認定」（2025年度基準）を取得
11月 4日	第70回宇宙科学技術連合講演会にて当社の宇宙分野への取組みについて講演

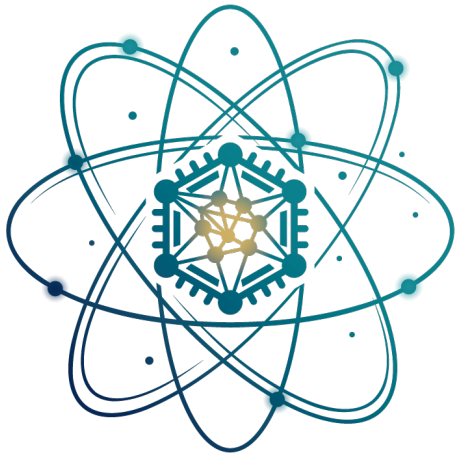
- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することにあり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

SETAGAYA TECH JUNCTION

最先端技術と社会をつなぐラジオ番組「SETAGAYA TECH JUNCTION」を提供

「SETAGAYA TECH JUNCTION」は、宇宙、量子コンピューティング、AI、ロボティクスなど最先端技術が持つ魅力と面白さを紹介するラジオ情報番組です。知的好奇心を刺激する最先端技術の可能性をより多くの人に届け、新しいイノベーションが生まれる交差点（ジャンクション）となることを目指します。



SETAGAYA
TECH JUNCTION

エフエムSETAGAYA 83.4MHz
毎週金 21:00～21:30
インターネットラジオ https://fmsetagaya834.airtime.pro/

Podcast
Spotifyで配信中
https://open.spotify.com/show/033UCT3cD7MZbzixEsoiXZ

公式サイト
最新情報はこちら
https://stj-tech.net/

Copyright © 2026 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.